

「第42回日本緑化工学会大会」案内（第3回）

第42回日本緑化工学会大会運営委員長 小林 達明

標記大会を下記の要領で開催いたします。会員はじめ多数の皆様のご参加をお待ちしております。

1. 大会概要

(1) 日程

2011年9月11日（日）～9月13日（火）

9月11日（日）午前 研究発表，研究交流発表会，資材工法展示
午後 総会，公開シンポジウム，懇親会

9月12日（月）研究発表，研究交流発表会，資材工法展示，研究集会

9月13日（火）現地見学会

(2) 会場

千葉大学けやき会館

（千葉市稲毛区弥生1-33 TEL：043-290-2009）

http://www.chiba-u.ac.jp/pdf/keyaki_map.pdf



所在地：千葉市稲毛区弥生1-33 千葉大学西千葉キャンパス構内

最寄駅：JR 西千葉駅(北口) 南門を経由し徒歩7分

京成電鉄みどり台駅 正門を経由し徒歩7分

※会場は正門左脇の建物です。

※構内に駐車場はございません。

お車でのお越しはご遠慮ください。

2. 参加申込方法・参加費用

当日受付にて参加費用をお支払ください。前納受付は8月1日で終了しました。

		正会員*	学生会員	非会員
大会参加費	当日	5,000円	2,000円	7,000円
懇親会費	当日	5,000円	3,000円	5,000円

※ 見学会の参加費については、別途いただきます。

賛助会員、非会員の大会参加費には、資料代（学会誌36巻1号）が含まれています。

（非会員学生の大会参加費には資料代が含まれておりませんので、必要に応じて別途ご購入下さい。）

3. 大会プログラム

9月11日(日)	大ホール	1F 入口ホール	2F 展示ホール	2F 会議室1	2F 会議室2	2F 会議室3	3F レセプションホール
9:15~		受付・書籍販売・ 企業情報コーナー	資材・工法展示	大会本部	ゲストルーム 休憩室	発表準備スペース	
9:45~9:50	開会挨拶						
9:50~12:00	□ 頭発表1						
12:00~12:30							発表者ポスター展示準備
12:30~14:00	学会賞表彰・総会						論文・技術報告 研究交流発表会
14:00~17:00	公開シンポジウム						ポスター展示
17:30~	懇親会(千葉大学 生協)						

9月12日(月)	大ホール	1F 入口ホール	2F 展示ホール	2F 会議室1	2F 会議室2	2F 会議室3	3F レセプションホール
9:00~12:10	□ 頭発表2	受付・書籍販売・ 企業情報コーナー	資材・工法展示	大会本部	ゲストルーム 休憩室	発表準備スペース	論文・技術報告 研究交流発表会 ポスター展示
12:00~13:00						評議員会	↓
13:00~15:00							ポスターコアタイム
15:00~17:00	研究集会1				研究集会3	研究集会2	↓
17:00~18:00	ポスター賞表彰 閉会挨拶						

9月13日(火) 見学会	
10:00	JR浦々崎駅集合
10:15~12:00	出光興産 千葉精油所見学
12:00	昼食
13:00	散会

※評議員会は、9月12日(月)12:00から会議室3で開催予定です。

※本大会のプログラムには、緑化・環境 CPD 認定行事が含まれております。また、本大会は森林・自然環境技術者教育会 (JAFFEE) の CPD プログラムに認定されています。

当日、CPD カードをご持参下さい。なお、ポイントの詳細については学会 HP の大会案内に掲載予定です。

4. 研究発表（論文・技術報告）

■ 論文・技術報告 □ 頭発表1 9月11日(日)9:50~12:00(発表12分, 質疑応答3分)

◇ 場所: 大ホール

No.	タイトル	著者名	時間
0-T1	緑化工への利用が有望な国内在来イネ科草本の選抜	入山義久・三輪哲哉・高山光男・鈴木玲	9:50
0-T2	土壌化学性の違いによるナルトサワギク, セ	田中淳・瀨瀬裕美・大藪崇司・藤原道郎・	10:05

	イタカアワダチソウの防除技術の開発	田中賢治・朝日伸彦・杉浦弘毅	
0-T3	無灌水での樹木対応型壁面緑化システムの帯鋼補強土壁工法への適用	村谷優・高尾浩司郎・志村直紀	10:20
0-T4	種分布の特異性を指標とした種多様性向上のための立地環境の評価	相澤章仁・小林達明・田代順孝	10:40
0-T5	堺・泉北臨海工業地帯における緑化と鳥類生息からみる工場緑化の簡易調査について	福井亘・寺島明那	10:55
0-T6	有機質系リサイクル資材を混合した生育基盤へのトビムシ類の侵入	麻生理加・伊藤大輔・福永健司・橋隆一	11:10
0-T7	建替団地における樹齢約50年のサトザクラ類の樹木活力度と花付の関係	小木曾裕・鈴木理恵子・金子隆行・鈴木健史	11:30
0-T8	高知市及びその周辺における海岸マツ林の変遷	芦辺貴浩・楠瀬雄三・福井亘	11:45

■ 論文・技術報告 口頭発表2 9月12日(月) 9:00~12:10(発表12分, 質疑応答3分)

◇ 場所: 大ホール

No.	タイトル	著者名	時間
0-T9	地上型レーザースキャナを用いた樹木の形状及び体積計測の試み	山岸裕・松江正彦	9:00
0-A1	法面緑化地での車載レーザー利用のためのシミュレーション開発	加藤顕・小林達明・福田聖一・有村恒夫	9:15
0-T10	ポット底面の空気根切り処理が苗の根系生長に与える影響	正月公志・福永健司・橋隆一	9:30
0-A2	落葉広葉樹8樹種の苗木植栽後15年間の成長と植生構造の変化	高砂裕之・高山晴夫	9:45
0-A3	造成地における未熟土の性状とバーク堆肥施用が土壌改良および4樹種の苗木の初期成長に与える効果	高砂裕之・高山晴夫	10:00
0-A4	山火事の履歴が野生ツツジ類二種の開花景観に与える影響	濱本菜央・森本淳子・水本絵夢・森本幸裕	10:20
0-A5	開花期のサクラ類の活力度評価ー奈良県吉野山のヤマザクラを事例とした検討	今西純一・奥川裕子・金鉉竣・飯田義彦・森本幸裕・山中勝次・小島玉雄	10:35
0-A6	近畿地方の市街地に生育するシダ類の種組成と気候要因との関係	村上健太郎・森本幸裕・堀川真弘	10:50
0-A7	利根川水系における絶滅危惧種タチスミレの生育立地とその植生管理	澤田みつ子・小幡和男・上條隆志・中村徹	11:05
0-A8	商業施設内の休憩施設に設置した観葉植物と人工植物が空間評価に及ぼす影響	松本莉奈・長谷川祥子・下村孝	11:25
0-A9	商業施設の屋上緑化空間における夜間利用者が人の心理・生理に与える効果	金侑映・岩崎寛・那須守・高岡由紀子・林豊・石田都	11:40
0-A10	千葉県北西部のアズマネザサ群落の刈り取りによる二次草原構成種の再生と維持	児玉卓也・小林達明	11:55

■ 論文・技術報告 ポスターセッション 9月12日(月) 13:00~15:00

◇場所：レセプションホール

コアタイム (*: 13時~13時30分, **: 13時30分~14時, ***: 14時~14時30分)

No.	タイトル	著者名	時間
P-A1	剪定時期と強度がオオシマザクラ (<i>Cerasus speciosa</i> (Koidz.) H. Ohba) の巻き込み組織形成に及ぼす影響	兼村星志・大藪崇司・澤田佳宏・山本聡・藤原道郎	*
P-A2	クスノキ挿木苗の生理・形態特性：実生苗との比較	東若菜・仲尾公平・橋本光司・石井弘明	**
P-A3	夏季から秋季にかけての気温がキンモクセイの開花に及ぼす影響	中島敦司・山本将功・大南真緒・仲里長浩・廣岡ありさ	***
P-A4	秋季の加温処理が狭い範囲で産地の異なるアカマツ苗の成長に及ぼす影響	平田真智子・山本将功・青木まどか・中島敦司	*
P-A5	異なる塩水灌漑条件下における塩生植物 <i>Tamarix ramosissima</i> Ledeb. の Na ⁺ 動態	今田省吾・ACHARYA Kumud・岩永史子・山中典和	**
P-A6	百貨店の屋上緑地を事例とした初夏における緑の効用に関する利用者評価	那須守・岩崎寛・高岡由紀子・林豊・金侑映・石田都	***
P-A7	低木改良品種における CO ₂ 吸収量および蒸散量の定量的比較評価	赤阪幸司・大藪崇司・堀川真弘・澤田佳宏・山本聡・藤原道郎	*
P-A8	数種の屋上緑化薄層基盤土壌からの栄養塩類の流出について	渡辺均・山中典幸・横川晴昭・千村隆太	**
P-A9	千葉県におけるモウソウチク林群落拡大モデルに関する基礎的研究	鬼東大平・加藤颯・小林達明	***
P-A10	ヒノキ人工林における林齢の空間分布が表層崩壊の発生位置に与える影響について	執印康裕・堀田紀文・松英恵吾・有賀一広・田坂聡明	*
P-T1	万葉集にみる秋の七草の生育立地	七海絵里香・大澤啓志・勝野武彦	**
P-T2	富士山南麓で6年間に採取した落葉広葉樹の種子と発芽率—地域性種苗利用のための一報告	中村華子・篠崎隼也・福永健司	***
P-T3	河川改修に伴うニセアカシア (<i>Robinia pseudacacia</i> L.) の分布拡大	大和田壘・佐々木祐司・岡村俊邦	*
P-T4	膨軟化竹チップを用いた植生基材の化学的性質の変化	大豆生田萌・田中普章・高橋輝昌・池田昌義・沓澤武 江崎次夫・河野修一・村上尚哉・上野太祐・兵藤充祥・大野博・松本淳一・土居幹治・藤島哲郎	**
P-T5	エチゼンクラゲ類 (<i>Nemopilem</i> spp.) を活用する山腹工	Damdinsuren Enkhjargal・全 権雨	***
P-T6	Effect of Jellyfish Fertilizer Application on Seedling Growth	全権雨・Damdinsuren Enkhjargal・Yeom Kyujin・江崎次夫	*
P-T7	軽量気泡コンクリートとコンポストを植栽土壌としたツルレイシ (ニガウリ) の生育	藤崎健一郎・安部星来・勝野武彦	**
P-T8	中空構造栽培槽の空間緑化基盤としての特性とイチゴおよびレタスの生育	内山知二・西本登志・山崎敬亮・熊倉裕史・長崎裕司・佐野修司・遠藤常嘉・隅谷智宏	***
P-T9	キリンソウ (<i>Sedum aizoon</i> L. var	柿下彩夏・我妻尚広・岡本吉弘	*

	<i>floribundum</i> Nakai)の越冬芽分化におよぼす照明の影響	入山義久・鈴木 玲	
P-T10	弾性波計測に基づく植物体の水分ストレス評価	上野由樹・鈴木哲也・鈴木直也・鈴木創三・青木正雄	**
P-T11	屋上緑化施設の経年変化に関する調査	金甫炫・木下剛	***
P-T12	階層分析法を用いた建物緑化の宣伝効果研究	加藤真司・石井儀光・有川智・金甫炫・鈴木弘孝	*
P-T13	水生植物の地上部生育量と根圏容量の相関性について	屋祢下亮・瀧寛則	**
P-T14	都市域内の河川緑地における直翅目の生息実態	根津準一郎・大澤啓志・勝野武彦	***
P-T15	都市域のエコロジカルネットワーク計画における動物の移動分散の距離に関する考察	徳江 義宏・大澤 啓志・今村史子	*
P-T16	町田市剪定枝資源化センターにおける木質系堆肥の利用事例報告	山本理恵・長嶺利樹・高橋輝昌	**
P-T17	東京都市街域における街路樹オオムラサキツツジの葉の黄化症状	南晴文・坂本浩介・市川紘介・渡辺陽介・半田高・松浦里江・渋谷圭助	***
P-T18	吉野山におけるナラタケ類発生地 of 土壌と生物防除の検討	棚橋 渉・吉田麻美・山中勝次・森本幸裕・今西純一・小島玉雄・米田稔	*
P-T19	吉野山五郎茶屋地区の土壌化学性とその将来予測	篠原章宏・吉田麻美・山中勝次・森本幸裕・今西純一・小島玉雄・米田稔	**
P-T20	兵庫県里山域のニホンジカ生息地における樹木種の動態	山瀬敬太郎・関岡裕明・栃本大介	***
P-T21	林床ササ植生バイオマスと葉内養分含有量の簡易推定方法	岩月良介・戸田浩人・崔東壽	*
P-T22	熱画像を用いたケヤキの緑陰機能の評価	淑敏・日置佳之・太田垣亮	**
P-T23	緑地におけるウォーキングの心理的効果に関する基礎的研究	増田悠希・岩崎寛	***
P-T24	森林公園における市民参加型癒しの森づくり	白井珠美・岩崎寛・福島成樹・小平哲夫	*
P-T25	公園再整備による空間構成の変化と利用者の利用形態及び満足度との関係に関する研究	呉垠錫・廉晟振・木下剛	**
P-T26	親水公園を活かした緑地のネットワークと住民の緑地利用に関する研究	廉晟振・呉垠錫・李志雄	***

5. 研究交流発表会 ポスターセッション 9月12日(月) 13:00~15:00

◇場所：レセプションホール

コアタイム (*: 13時15分~13時45分, **: 14時15分~14時45分)

No.	タイトル	著者名	時間
PE-01	つる性植物を利用した屋上緑化における栽培方法と熱環境改善効果について	多田雄一・小嶋茉美・坪井聡史	*

PE-02	オオハンゴンソウ (<i>Rudbeckia laciniata</i> L.) の2年生苗の生育に及ぼす刈取りの影響	鄭亜紀子・石垣春・近藤哲也	**
PE-03	マイヅルソウ (<i>Maianthemum dilatatum</i>) 種子の発芽フェノロジーと発根に及ぼす温度と光の影響	鄭亜紀子・斎藤達也・近藤哲也	*
PE-04	一般流通規格基準(樹高30 cm)以下のポット苗木に対する実用性の検討	佐々木祐司・岡村俊邦	**
PE-05	里山の指標種ワレモコウの地理的変異～人の利用は遺伝的多様性に影響を与えたか～	佐伯いく代・飯田晋也・小池文人・小林慶子・平塚和之	*
PE-06	生物多様性緑化と外来種のシンボルツリーの是非	野呂恵子・倉本宣	**
PE-07	植生管理計画と日々の合意形成の矛盾	吉田朗子・倉本宣	*
PE-08	山火事跡地の航空実播工 -愛媛県笠松山-	田中健一・河野修一・江崎次夫・全権雨	**
PE-09	埋土種子の発芽と生育	河野修一・江崎次夫・田中健一・全権雨	*
PE-10	乾燥エチゼンクラゲ類の施用が緑化用植物の発芽・出芽および生育に及ぼす影響	江崎次夫・河野修一・中谷早織・川崎哲郎・稲本亮平・Damdinsuren Enkhjargal・全権雨	**
PE-11	エチゼンクラゲ類を活用したダム周辺の緑化	Enkhjargal・稲本亮平・松本淳一・土居幹治・藤島哲郎・河野修一・江崎次夫	*
PE-12	エチゼンクラゲ類を用いた海岸クロマツ林の造成	全権雨・Damdinsuren Enkhjargal・柳原 敦・河野修一・江崎次夫	**
PE-13	植物の生育と地温に及ぼす被覆資材の影響	全権雨・稲本亮平・河野修一・江崎次夫	*
PE-14	クロマツ海岸林の造成	河野修一・江崎次夫・柳原敦・稲本亮平・全権雨	**
PE-15	ライシメーターを利用したのり面緑化試験地32年目の結果	河野修一・江崎次夫・稲本亮平・全権雨	*
PE-16	Study on hospital garden for the purpose of picking flowers for horticultural therapy	岡直子・宮下佳廣・岩崎寛	**
PE-17	クズ(<i>Pueraria lobata</i>)を用いた被覆による日射遮蔽と模擬畜舎室内温度上昇抑制効果の評価	神山拓也・吉永美香・前多敬一郎・山内章	*
PE-18	河口域の微地形変化と海岸植物ハマサジの分布	中村彰宏・塩井景介	**
PE-19	日本庭園での樹木成長による景観変化抽出のための景観シミュレーション	中村彰宏・江本菜美子・今西純一・森本幸裕	*
PE-20	河口域における海岸植物ハマサジの動態	塩井景介・中村彰宏	**

6. 公開シンポジウム

公開特別シンポジウム 「都市の沿岸防災と緑化」

地震・津波災害・原発事故をもたらした東日本大震災は、わが国の自然環境の厳しさを改めて私たちに教えてくれるとともに、都市のあり方にまで大きな反省を迫っています。私たちは公開特別シンポジウムを開催し、海岸埋立地の液状化や海岸林に関する被災状況実態調査を踏まえ、沿岸部の海岸林や近郊緑地、市街地内の緑地がどのような役割を果たしたのか、どのような問題があったのか、データをもとに検証します。これらの議論を通して、東海沖地震等の発生も予想される中、これから、いかに安全性が高く潤いがあるまちづくりが可能か、緑地にはどのような役割が期待され、どのような改善策があるのか、市民とともに考えたいと思います。

日時： 2011年9月11日（日） 14:00～17:00

場所： 千葉大学（西千葉キャンパス）けやき会館大ホール

プログラム：

挨拶（14時～14時10分）

東日本大震災に学ぶ緑地の課題 日本緑化工学会会長 小林達明

基調講演（14時10分～40分）

地形・地盤と都市の地震防災 千葉大学 中井正一

講演（14時40分～15時50分，一人20分＋質問3分）

浦安地区地盤液状化の現状と緑地の役割
-都市緑化研究部会震災調査結果速報- 東邦レオ（株） 木田幸男

海岸林の機能と津波への応答 東京都市大学 吉崎真司

企業緑地の生物多様性評価と防災 (株)竹中工務店 三輪 隆

ディスカッション（16時～17時）

都市沿岸防災における緑化の役割と戦略
コーディネータ 大阪府立大学 藤原宣夫

全体司会：鈴木弘孝（城西国際大学）

7. 資材・工法展示の概要

◇出展者：ICT インターナショナル Pty Ltd

「生木の樹液流や水ポテンシャルの測定」

樹木の蒸散に関係のある「樹幹内の樹液流」や「幹部分の水ポテンシャル」本学会では、樹木に直接設置しモニタリングできるこれらの測定器をご紹介します。

◇出展者：（独）日本原子力研究開発機構 高崎量子応用研究所

新しい品種などの創成に役立てていただくため当研究所のイオンビーム照射施設のご紹介並び

にご利用案内を行いたいと考えております。

◇出展者：紅大貿易株式会社

「高品質種子を迅速にお届けする舞台裏」

緑化用種子が最大限のパフォーマンスを発揮するためには、優良品種の発掘、最適な保管と管理、現場環境に適合する種子の選択、正確で迅速な出荷が欠かせません。信頼の紅大種子を支える舞台裏をご紹介するとともに、種子取扱 50 年のノウハウを活かした各種委託業務(種子保管業務や現場採取土壌での発芽試験など)のご活用を提案いたします。

◇出展者：雪印種苗株式会社

「自然生態系に配慮した緑化用矮性種子及び、施工性・ローメンテナンス性に優れた生分解性マット基盤ロール芝のご紹介」

従来品種よりも種子の飛散による雑草化のリスクが少ない、草丈の低い矮性品種の他、軽量で施工性・ローメンテナンス性に優れた生分解性マット基盤ロール芝をご紹介致します。

◇出展者：国土環境緑化協会 関東支部

「自然侵入促進植生マット「飛来ステーション工法」」

これまでののり面緑化は、早期に緑化して侵食防止を図る急速緑化を重視した、外来草主体の工法が主流であった。しかし、その後の環境・景観重視の流れを受け、木本群落を目的とした遅速緑化となり、近年では周辺環境との調和が取れた工法が求められている。そのため、それに対応すべく新たな工法「飛来ステーション工」を開発した。

◇出展者：エスペックミック株式会社

「気象観測機器「WatchDog」の紹介とチガヤ・オギなどの地域種による緑化」

簡易気象計測機器「WatchDog」は温湿度や光量子や土壌水分・雨量・Co2 など多彩な気象項目を測定記録できるデータロガーです。それとともに、地域性を考慮したチガヤやオギなどによる緑化の事例をご紹介いたします。

8. 研究集会

(1) 「法面における自然回復緑化施工後の植生管理の実態から考える緑化目標設定のあり方」
12 日(月) 15:00~17:00

◇場所：大ホール

これまで斜面緑化部会では、斜面緑化技術を単に侵食防止を目的とした「緑化」ばかりではなく、自然景観の修復や自然生態系の回復など社会的要望の強い多様な緑化の実現、つまり法面防災と自然回復を兼ね備えた緑化を「自然回復緑化」として新しく位置付けするべく、議論の場を重ねてきた。しかし、緑化工事の現場では、自然回復緑化の普及は必ずしも順調に進んでいるとはいえない。

今年2月に行った公開シンポジウム「斜面緑化の過去・現在そして未来」では、多くの緑化工事で緑化目標が明確でなく、設計、施工、植生管理が連動していない、緑化工事の発注形態や成績判定方法などに自然回復緑化を普及させるための「しくみ」が整っていない、自然回復緑化は従前の法面保護工とは異なる枠組みでの位置付けが必要という課題があぶり出された。そこで今回は、こうした中から法面における自然回復緑化施工後の植生管理の実態について、特に若手技術者から報告していただき、それらの報告から緑化目標設定のあり方について議論する。

企画責任者：橘 隆一（東京農業大学）

話題提供者：橘 隆一（東京農業大学），田中 淳（国土防災技術株式会社），久保満佐子（国

土技術政策総合研究所), 小林慶子(横浜国立大学), 細木大輔(農業環境技術研究所)

(2) 「緑化工学会誌に緑化事例を掲載するためのコツ」

12日(月) 15:00~17:00

◇場所: 2F 会議室 3

現在, 緑化工学会誌には, 緑化事例を原稿として紹介する部門として, 「論文」, 「技術報告」, 「技術資料」などがあります。多くの新しい緑化技術が試みられてはいるものの, 本学会誌に掲載される事例は一部に留まっています。それゆえ, 会員間での情報の共有が制限されています。この現状を打破するために, 第11期の編集委員会では, 現場での最新の動向を伝える「技術報告」ならびに「技術資料」部門の充実を図るための協議を行いました。現在のこれらの部門への投稿動向, 調査実験の内容や原稿執筆時に注意すべき点を編集委員会から, 実際に緑化施工して原稿を掲載した方から苦労した点やコツを紹介します。さらに, 緑化施工時の調査やデータ公表に関する問題点についても会場の皆様方と議論し, 多くの緑化事例を学会誌に掲載するための改善点について検討します。

企画責任者: 吉崎真司(東京都市大学)・岡浩平(広島工業大学)・中村彰宏(大阪府立大学)・田中賢治(国土防災技術株式会社)

話題提供者(予定): 松江正彦(国土技術政策総合研究所)・岡浩平(広島工業大学)・中村彰宏(大阪府立大学)・田中賢治(国土防災技術株式会社)ら

(3) 「被災者に対するメンタルケアとしての緑化・植物」

12日(月) 15:00~17:00

◇場所: 2F 会議室 2

震災直後は緑化や植物をと言う前に, 生命を維持するための物資と空間が必要であるが, その次の段階になると物理的な支援だけでなく, 精神的な支援が必要になってきます。いわゆるメンタルケアです。家族との別れによる哀しみ, 避難所での生活によるストレス, これからの人生に対する不安など多くの精神的な苦痛は薬や手術では解決できません。阪神淡路大震災の際, 公園に焼き残っていたクスノキが芽吹くのを見て被災者は生きる希望を見だし, 仮設住宅に植えられた花を見て被災者の顔に笑顔が戻ったという報告もあります。

今後, 緑を扱う専門家は物理的な緑化だけではなく, 緑による癒しという精神的側面からの支援にも注目して展開していく必要があると考えています。そこで本研究集会では, コメンテーターに災害看護の専門家をお招きし, 緑・健康研究部会のメンバーを中心に, 今後の被災者に対するメンタルケアとしての緑化・植物の方向性について会場の皆さまと共に検討していきたいと考えています。

企画責任者: 岩崎 寛(千葉大学)

参加者(予定): 緑化工学会緑・健康研究部会 岩崎 寛(千葉大学)・飯島健太郎(桐蔭横浜大学)・今西純一(京都大学)・山本 聡(兵庫県立大学/淡路景観園芸学校)ら

コメンテーター: 宮崎美砂子(千葉大学大学院看護学研究科)

9. 見学会

日時: 9月13日(火) JR姉ヶ崎駅 午前10時集合, 午後1時頃解散予定

場所: 出光興産 千葉精油所(千葉県市原市姉崎海岸 2-1)

募集人員: 40名(先着・事前申し込み) 参加費: 1,000円(昼食代: 当日集めます)

<概要>

工場緑地は、工場立地法によって特定工場に設置が義務づけられた施設ですが、維持管理等に苦慮している工場も少なくありません。そのような中で、出光興産千葉製油所は「公害のない地元から愛される製油所・工場づくり」を目指して、1963年の操業開始から積極的にグリーンベルトを設けてきました。2008年12月には石油業界初のSEGES（社会・環境貢献緑地評価システム）認証「Excellent Stage2」の認定を受けました。危険物を扱う製油所・工場という制約の中で、操業以来緑地が継続的に良好に維持され、地域の貴重な自然資源として寄与していることや、これまでの工場緑地の概念にとらわれず、新たな改善を図りつつある点などがその評価理由です。現在は「百年の森構想」の下、平成27年度の完全竣工を目指して緑地整備が進行中で、千葉県の在来植生への転換や水辺生態系の質向上などが図られています。

今回の見学会では、このように先進的な取組を行っている出光興産千葉精油所において、敷地内の緑地の見学と現地解説を行います。

<参加申し込み>

参加を希望される方は、①代表者の氏名、②所属、③参加人数、④代表者の連絡先（メールアドレスおよび携帯電話番号）を明記の上、以下の申込先までメールでお申し込みください。人数に限りがありますので、定員になり次第締め切らせていただきます。

参加申し込み締め切り 9月2日(金曜日)

申込先：緑化工学会千葉大会見学会担当 岩崎 寛

(見学会申し込みメールアドレス：iway@faculty.chiba-u.jp)

メールのタイトルに「見学会申し込み」とお書きください。なお、申し込みから2週間以内に、こちらからの確認メールが届かない場合は、再度ご連絡ください。当日の詳細なスケジュール等は参加者の方に別途お送りいたします。

10. 大会運営委員会

第42回日本緑化工学会大会運営委員会

委員長：小林達明 委員：岩崎 寛，加藤 颯，柴田忠裕，白井珠美，鈴木弘孝，高垣美智子，高橋輝昌，利根川臣一，三輪 隆

〒271-8510 松戸市松戸648 千葉大学大学院園芸学研究科(園芸学部)

TEL : 047-308-8892 (大会事務局直通) FAX : 047-308-8893

E-mail : ryokkakou42@gmail.com